2U-8(P)　ボタンかけ動作における高齢者の特性

○猪又美栄子　中村亜矢子
(昭和女大)

目的　高齢者の身体形態、生理機能、運動機能の変化に対応した衣服の設計を目的として、衣生活における高齢者の動作特性をボタンかけ動作から検討した。

方法　健康な高齢男女、２０歳代男女を被験者として着用実験を行った。ボタンかけ動作をビデオを撮影し、所要時間の測定、手・指・腕の動き、姿勢等について観察した。

結果　(1) ボタンかけ時間は加齢とともに増加しているが、特に袖口ボタンをかける時間の変化が大きかった。また、７０歳代でボタンかけ時間の個人差が大きいが、８０歳代では個人差が小さく、平均値が大きいことから、７０歳代でボタンかけ動作が変化すると推察される。　(2) ２０歳代女子と高齢女子では袖口ボタンかけの動作が異なっていた。高齢者では２つのパターンがみられたが、いずれも肘を体幹につけて、袖口ボタンを固定し安定させてからボタンをかけていた。　(3) ボタンをかけにくい位置でのボタンかけ時間の個人差が大きかった。既製服のミシン縫製のボタンをつけなおすことにより、ボタンがつかみやすくなるために、ボタンかけ時間の最大値の大幅な減少がみられた。 (4) 上半身用衣服の前ボタンかけ時間の長い高齢者では、上腕を大きく動かす、ボタンホールの位置を確認するなどのボタンかけに習熟していない幼児と同様の動作がみられた。また、ボタンかけ時間やボタンのかけやすさ・かけにくさの感覚とボタンかけの姿勢に関連みられ、上半身用衣服の裾幅や素材の伸縮性とボタンのかけやすさとの関連も示唆された。